巻頭特集

いせさきFM

地元密着の番組を通して人の心を結ぶ

ローカルに特化し、地元の情報を日々ラジオに乗せて送り出すコミュニティ放送局「いせさきFM」。開局8年目を迎えたいせさきFMの番組作りの姿勢と、そこへ込められた地元への思いを取材しました。

放送では、「4W1H」という「いつ（When）、どこで（Where）、だれが（Who）、なにを（What）、どのように（How）」を重視し、誰にでもわかりやすい説明を心がけています

3

2

1

1 4月に開かれたイベント「伊勢崎エコ・マラニック」の参加者の方にインタビューするハナエさん。コメントは「情報アイランド」の中で紹介されました　2 インタビューした内容をパソコンへ取り込み、声の大きさの調整や不要な音のカットなどの編集作業をします　3 ブースの向こうには番組プログラムと現在の時刻が表示されています。これに従って番組が進行します

伊勢崎を中心とし地元密着の情報を発信

毎日のラジオから聞こえてくるパーソナリティーの声。生活の中に溶け込み、顔は知らなくても親しい友人のように感じられます。

南千本町にオープンスタジオを構える「いせさきFM」は、今年で開局8年を迎えるコミュニティ放送局です。コミュニティ放送局とは、市町村内の一部の地域を中心としてFMラジオを放送する局のこと。全国区の放送局とは違って、その地域や生活に特化した情報をきめ細かく伝えていきます。

東日本大震災が発生したとき、被災地と他地域では必要とされる情報が大きく異なりました。被災地では安否確認や救援・支援情報などの細かい情報と即時性が求められ、コミュニティ放送局がその役を担い、大きな力となったのです。

伊勢崎市は利根川が走っていることもあり、昔から水害が多く発生していました。昭和22年9月に発生した「カスリン台風」では、境の半分が流されたといいます。いせさきFMの放送局長である高橋忠文さんは「緊急時の情報伝達手段として、コミュニティ放送局が必要だと思いました」と、開局のきっかけを語ります。

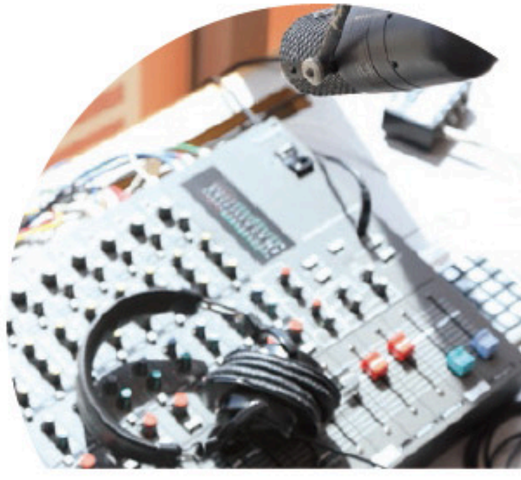
「災害時の運用だけでなく、地域活性化も念頭にありました。平成17年に合併し伊勢崎市が大きくなったので、放送を通して地域が一体になれば」と、国への申請などを含め3年ほどの準備期間を経て、平成20年に開局されました。

「ワンマンDJスタイル」番組の制作を1人ですべて担当

番組の中でも、平日に生放送される自社制作の情報番組は局の要。ローカルニュースや地元のイベントレポートだけでなく、全国ニュースや芸能ニュース、天気、パラエティなどのコーナーを盛り込んだ1～2時間の番組が構成されています。全国ニュースは共同通信や新聞社などから配信される情報を元に、ローカルニュースは実際に市役所や公民館へ足を運んで集めた情報から原稿を起こして制作。イベントでは主催者や参加者からコメントをもらうこともあります。

いずれも心がけているのは、「放送電波は公共のもの」という考え方。公平性や正確性、さらに情報をラジオで初めて知った人にもわかりやすく伝えることに気を配っています。

「ラジオ番組の制作には、毎日の番組内容を考える人、マイクや音楽などの機材を操作する人、マイクに向かってしゃべる人が必要ですが、いせさきFMは1人が企画から取材、制作、放送までを担当する形で行う『ワンマンDJスタイル』です」と高橋さん。



スタッフには、情報の取捨選択や取材時のフットワークの軽さ、原稿をまとめあげる文章力、聞きとりやすい発声、突発的な災害や出来事に対応する柔軟性など、さまざまな能力が求められます。「大変な仕事ですが、自分で取材して音声を編集し放送に乗せる、自分ですべてを作れるところが、この仕事の面白いところです」と、パーソナリティーのハナエさんはにっこり。

パーソナリティーとは日本語で「個性」を指す言葉。高橋さんが「新聞や雑誌と違い、ラジオやTVは担い手の感情が放送を通してハッキリと分かってしまいます」というように、それぞれの個性や持ち味が番組に反映され、ラジオから聞こえる声の魅力につながっているようです。

ローカル局ならではの番組はいざという時の情報インフラに

同局で特に人気が高いのは「ありがとうコール」のコーナーです。佐波・伊勢崎エリアの保育園・幼稚園と父兄の協力を得て、子どもたちから大切な人へ「ありがとう」の言葉を電波に乗せて届けるもの。子どもたちの元気な様子や可愛らしさ、愛くるしさがいっぱいのコーナーで、「聴いていると、ほんわかとした優しい気持ちになります。こうしたローカル色の強い放送ができるのもコミュニティ放送局の良さだと思います」と高橋さんは続けます。「番組に対しメールやリクエストを送ってくださる方は地元愛の強い方が多いですね。近くで梅の花が咲いたよという写真付きのメール、番組トークに対しての同意や補足、そして会話をしているかのように毎日メールを送ってくださる方もいて、一緒に番組を盛り上げていただき感謝しています」と感謝の言葉を述べます。

地元を主体とした番組作りを大切にする「いせさきFM」リスナーの生活に溶け込むことは、有事で活用されることにつながります。緊急時の情報伝達手段として、また地域活性化のため、いせさきFMは今日も地元の情報を電波に乗せています。

RADIO STATION 76.9 いせさきFM

オープンスタジオ
伊勢崎市南千木町2350-3　TEL.0270-26-7690

周波数はFM76.9（ナナロック）
番組サイト http://www.fm769.com/
番組ブログ http://fm769guestdiary.sblo.jp/

いせさきFM パーソナリティーのみなさん

かずみんさん
平日昼12:00～13:00「アップラジオぷちっとタウン」、土曜16:00～19:00「かずみん、ハナエのペッパーラジオ」を担当

ハナエさん
平日夕方17:00～19:00「情報アイランド」、土曜16:00～19:00「かずみん、ハナエのペッパーラジオ」を担当

松浦たくさん
日曜15:00～16:00「松浦たくの『おしえて!!伊勢崎大百科』」を担当

狩野智也さん
木曜13:00～14:00「群馬グリフィンのGET RESULT（ゲットリザルト）」を担当

須賀ひさしさん
平日昼12:00～13:00「アップラジオぷちっとタウン」を担当

TAKAHASHIさん
いせさきFM放送局長・高橋忠文さん。平日朝7:00～9:00「ばわふるモーニング」を担当

文／小林美佐子　写真／篠原 亨　写真提供／いせさきFM放送株式会社　デザイン／伊藤翔志